

## 第25回流域委員会の審議骨子

第25回「九頭竜川流域委員会」が平成16年11月18日に福井県民会館において、開催されました。



### これまでの九頭竜川流域委員会の経緯

平成14年

#### 開催日程

第1回(H14.5.9)  
}  
第8回(H14.12.26)

#### 委員会での審議内容

九頭竜川流域委員会設立(流域委員会の規約等)  
委員会の進め方、スケジュール等  
九頭竜川水系の現状と課題について  
現地視察(九頭竜川水系の現状説明等)  
住民意見聴取の方法等について  
九頭竜川水系の利水と環境について  
これまでの九頭竜川流域委員会で出された意見の論点整理 等

平成15年

第9回(H15.1.30)  
}  
第17回(H15.12.3)

九頭竜川水系の河川環境の整備と保全について  
これまでの九頭竜川流域委員会で出された質問について  
治水・利水の目標設定にあたっての基本的な考え方  
河川環境の整備と保全に係わる目標設定の考え方  
河川整備計画における治水計画の考え方(案)【検討対象洪水の選定と評価】  
九頭竜川水系(支川群)の河川整備計画の考え方について  
九頭竜川水系中流部ブロックの河川整備計画の内容について  
九頭竜川水系中流部・上流部ブロック河川整備計画原案(案)  
九頭竜川・日野川・足羽川の治水整備メニュー(案)  
九頭竜川水系の目標流量に対する対応策について  
住民意見聴取について 等

平成16年

第18回(H16.1.29)  
}  
第24回(H16.10.6)

河川環境の課題と対応方針(案)  
利水・利用の課題と対応方針(案)  
九頭竜川足羽川ブロックの河川整備計画の内容(足羽川本川を除く)  
足羽川の治水、環境・利水について  
九頭竜川水系の治水計画について  
発電取水による流量減少区間の対応状況  
治水専用ダムについて  
九頭竜川水系下流部ブロックの河川整備計画の内容について  
九頭竜川水系日野川ブロックの河川整備計画の内容(日野川本川を除く)について  
足羽川の治水対策について  
九頭竜川水系日野川ブロック及び吉野瀬川ダムの河川整備計画について  
「足羽川洪水災害調査対策検討会」(福井県知事設置)の目的及び審議の範囲  
福井豪雨の報告及びダムの効果について  
福井豪雨を踏まえた治水計画  
新提案治水計画における整備メニュー

第25回(H16.11.18)

**主な質問に対する追加説明及び河川激甚災害対策特別緊急事業の採択について**  
**足羽川の正常流量について**  
**真名川ダムにおける弾力的管理試験「フラッシュ放流」の実施報告について**

## 第25回流域委員会の審議骨子

当日は19名の委員が参加し、河川管理者から「主な質問に対する追加説明」、「河川激甚災害対策特別緊急事業の採択について」及び「足羽川の正常流量について」の説明がなされ、意見交換が行われました。また、平成16年11月15日に真名川ダムで実施された弾力的管理試験「フラッシュ放流」の実施についての報告も行われました。

### 1. 主な質問に対する追加説明及び

#### 河川激甚災害対策特別緊急事業の採択について

「主な質問に対する追加説明」に関して説明した主な内容は、以下に示すとおりです。

- (1)福井豪雨について
- (2)整備メニューについて
- (3)その他

さらに、「河川激甚災害対策特別緊急事業の採択について」の説明を実施した後に、次のような意見や質問が出されました。

1. 足羽川では、激特災害指定を受けたことに感謝するとともに、再度災害が発生しないよう一日でも早い復旧を行って欲しい。
2. 天神橋地点で  $2,400\text{m}^3/\text{s}$  を  $1,800\text{m}^3/\text{s}$  に調節するために足羽川ダムで最大  $790\text{m}^3/\text{s}$  を貯留して洪水調節していると解釈していいのか？  
足羽川ダムでは、最大  $810\text{m}^3/\text{s}$  の流入に対し、 $790\text{m}^3/\text{s}$  を貯留し  $20\text{m}^3/\text{s}$  を放流するダム操作により、天神橋地点で流量低減させる運用である。
3. 天神橋の検討対象流量を審議するには、他の検討対象地点（布施田・中角・深谷・三尾野）で提案されている流量が、それぞれどれくらいの流量確率なのかを比較してみると判断しやすい。
4. 最近の降雨パターンを考慮すると、福井豪雨のような短期集中型の降雨は特異でないと思う。福井豪雨に対しては安全になるよう整備すべき。
5. 九頭竜川は三川が合流しているため、降雨パターンや流量での評価が難しく、水位の状況から判断するののも一つの方法ではないか。
6. 内水対策については、福井豪雨による内水被害の状況、排水ポンプの設置状況や将来の都市計画等を踏まえて行っていくべき。
7. 足羽川の河床には土砂が堆積し、河川水位が上昇しやすい状況になっているため、河床掘削等の対策を早く行って欲しい。
8. 福井豪雨のような豪雨が来年も発生する可能性があるため、人々のそうした不安を解消するために、治水対策をわかりやすく説明していくことも重要である。

## 第25 回流域委員会の審議骨子

9. 足羽川整備後の水位（福井豪雨時の場合）のグラフには、30～40年に1回起こる日野川との合流点の水位上昇を1.0mと想定して足羽川の危険水域を示しているが、この結果によって足羽川ダム計画を検討するという考え方なのか？

福井豪雨時より合流点の日野川の水位を1.0m上げたのは、あくまでも参考ということであり、これをもとに計画を決めるわけではない。治水計画は、九頭竜川流域で発生する可能性がある洪水をいかに安全に処理するかを検討している。

10. 足羽川整備後の水位（福井豪雨時の場合）のグラフでは、福井豪雨時に比べて日野川との合流点の水位が1.0m高く想定しているが、その水位は過去にも起きていたものか？ 日野川の水位についての整理が必要である。

想定した水位は、過去の既往最大水位の範囲に入ったものである。

11. 検討対象流量の選定に際しては、福井豪雨より大規模な洪水が発生したときのために、その考え方を論理立てて整理しておく必要がある。流量確率が500分の1という安全度は、安全度として求め過ぎであるというのが第1。それから、この洪水に対処するには30年ぐらいのスパンで物を考える場合に対処不可能であるというのが第2。その二つの論理で棄却すべき。

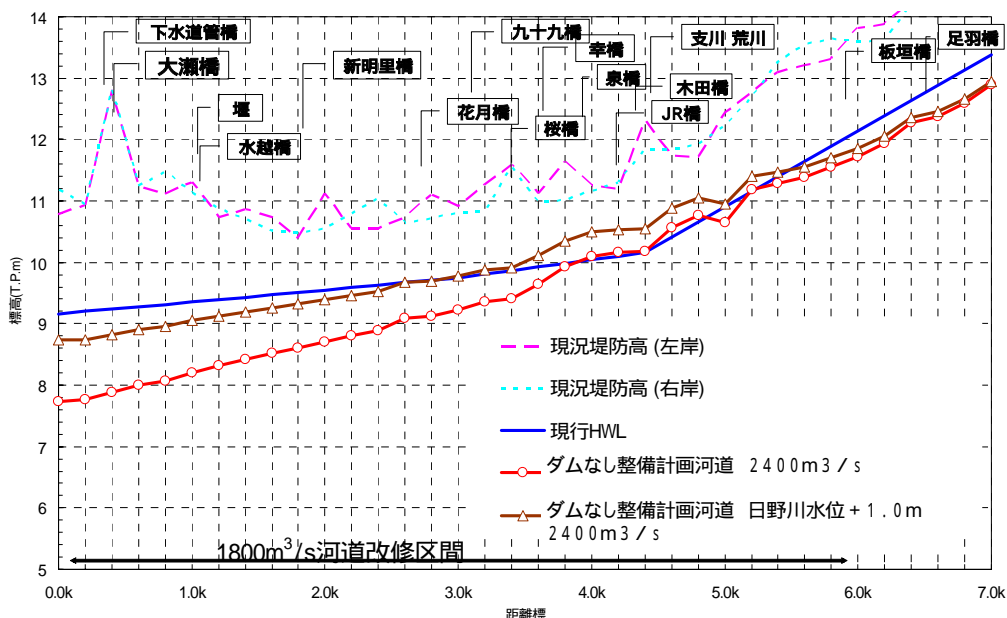
12. 流域委員会として、足羽川の治水にはダムが必要であると判断し、行政側には、福井豪雨の災害に襲われた地域の者たちが安心して住める町をつくっていただきたい。

13. 足羽川整備後の水位（福井豪雨時の場合）のグラフには、足羽川ダムありの場合の水位がないのはなぜか？

事前説明での質問の主旨が河床掘削の効果についてであったため、今回は河床掘削の効果だけを説明した。足羽川整備後の水位は激特事業の整備ではなく、河川整備計画で考えられている河床掘削を行った場合となっている。

### 河床掘削による効果

・足羽川整備後の水位（福井豪雨時の場合）



## 第25 回流域委員会の審議骨子

14. 足羽川整備後の水位（福井豪雨時の場合）は計画高水位を越えており、その対策としてダム等が必要なのか？  
激特事業により  $1,800\text{m}^3/\text{s}$  の河道に改修した場合でも、福井豪雨規模の洪水では計画高水位を越えるため、足羽川上流に貯留施設が必要となる。
15. 足羽川の整備メニューについては、河床掘削やダム建設に審議が集中しているが、流域の環境に配慮するのであれば、堤防強化による治水対策を充実してはどうか？  
河床掘削については、地下水位低下や塩水遡上等の弊害が発生しないように計画を立てている。計画高水位は堤防の設計基準で示されており、その水位以上を前提に堤防を補強することは危険である。また、足羽川の水位が高くなると流入する支川に影響を与え、内水被害が拡大する恐れもある。
16. 足羽川の下流端の水位条件を明確にし、河床掘削やダム等が整備された場合の足羽川の水位を整理する等、福井豪雨に対する安全性の検証は必要である。

### 2. 足羽川の正常流量について

「足羽川の正常流量について」に関して説明した主な内容は、以下に示すとおりです。

- (1)正常流量の設定の手順
- (2)河川区分
- (3)河川維持流量の設定
- (4)正常流量の設定
- (5)現況の流況

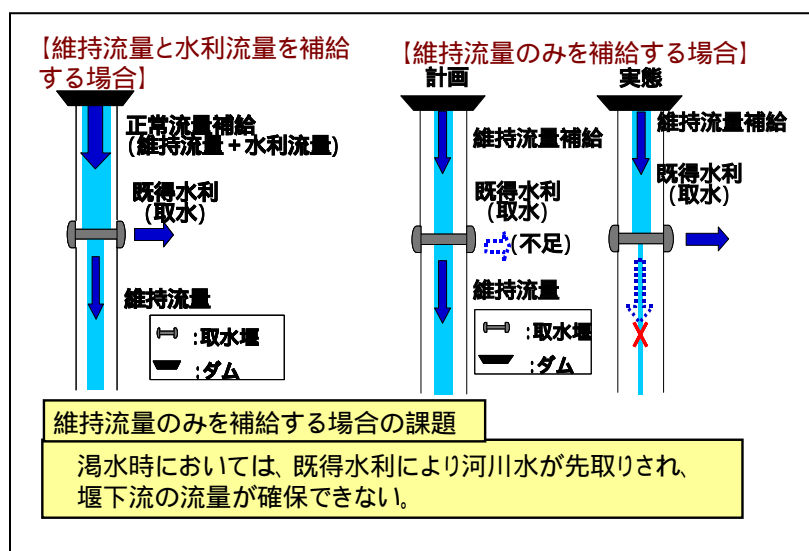
以上の説明を実施した後に、次のような質問や意見が出されました。

17. 河川環境にとっては、維持流量による瀬切れの解消や灌漑用水を確保するというのも一つの考えであるが、できるかぎり川はいじらず、そのままの状態にするべき。
18. 夏場の河川の維持流量としては、川にそこそこ水が流れ、子供たちが遊べる状態が望ましいのではないか。
19. 河川整備計画を立てるにあたっては、流域が抱える問題に対して、国土交通省と他省庁とが連携して議論して行って欲しい。
20. 農業利水では、水が無いときには番水で対処しているが、維持流量確保のためにダムから補給されれば、水利権分は取水してしまうだろう。維持流量の確保に向けては、まず水利権の縮小変更等の話し合いが必要である。
21. ダム建設には莫大な費用がかかるため、利水に対してはしっかりと利用者負担を考えていく必要がある。

## 第 2 5 回流域委員会の審議骨子

- 2 2 . 農業利水が必要なら、治水側と共同して利水分も確保できるダムを要望するはずである。
- 2 3 . 適切な維持流量を設定するためには、瀬切れの発生箇所の流水状況を把握することが重要である。
- 2 4 . 利水に対しては、“負担はしたくない”が“利用はしたい”というのが現状である。利水に対する要望は、今後の公聴会等に出てくるのではないか。
- 2 5 . 河川整備計画の作成には、林野・環境部門等のできるだけ多くのセクションが連携して、福井らしい方式で検討して欲しい。
- 2 6 . 榭谷ダムの建設が決まった時代は農業基盤が安定していたが、現在は後継者不足等で不安定な状況である。そんな状況下で利水のためにダムに出資するのは難しいではないか。
- 2 7 . 農業に対しては、農家を育て、安心して農業ができるような施策を考えることも重要である。
- 2 8 . 農業関係者も環境に対する配慮、努力は行っている。流域委員会は、正常流量について広い分野からもう一度考え直すいい機会である。

### 参考（ダム等施設による流水の供給）



### 3 . 真名川ダムにおける弾力的管理試験「フラッシュ放流」の実施報告について

真名川ダムでは、真名川の河川環境の改善を目指し、平成 16 年 11 月 15 日(月) 午前 9 時～午後 2 時にかけて、毎秒 45m<sup>3</sup> (河川流量と合わせて 50 m<sup>3</sup>) 計約 72 万 m<sup>3</sup> の流量を放流した。今年も、下流の河川敷に砂を置いて、これが流れることによる付着藻類の剥離更新などの環境改善効果についても調査を行っている。